

特集

地球のすべてが研究フィールド

探究心を支える 「世界の研究拠点」へ

鼎談「留学生から見た“世界の中の金沢大学”」
話題の研究室 クローズアップ
金沢大学研究施設ガイド



いまどき金大生 「Webアンケート集計結果」

EVENT CALENDER イベントカレンダー

★サークルのイベント ()は開催場所です。
*マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。
特に明記がないものは、金沢大学角間キャンパスで開催します。

2007

12月 December

- 1,2 → 「いしかわ金沢学」冬コース
- 5~14 → 理学部・資料館共催展「湯川秀樹・朝永振一郎生誕100年記念展」(金沢大学資料館)
- 8 → マンドリンクラブ定期演奏会(石川県文教会館)★
- 8 → 竹糸会[邦楽]定期演奏会(石川県教育会館)★
- 8,13,15 → 児童くらぶひこうせんクリスマス公演★
- 15 → ミニ講演「日本中世の聖地に生きる人々一僧、ヒジリ、陰陽師、神人を訪ねて」*
- 15 → モダンジャズソサエティ定期演奏会(ラプロ片町7階アートシアターいしかわ)★
- 15,16 → 演劇部[らくだの会]金大祭公演(金沢市民芸術村)★
- 18~24 → 理学部・資料館共催展「湯川秀樹・朝永振一郎生誕100年記念展」(金沢21世紀美術館)
- 22 → 吹奏楽団 定期演奏会(金沢歌劇座)★
- 22 → 軽音部 お城のコンサート'07(金沢AZホール)★
- 22 → 琴尺八部 邦楽演奏会(石川県文教会館)★
- 22 → 児童文化部 クリスマス公演★

■金沢大学サテライト・プラザ 金沢市西町(金沢市西町教育研修館内)



- 開館時間
平日:11:00~19:00
土日祝:10:00~18:00
- 休館日
毎週火曜日、夏季一斉休業日、年末年始



コンビニ前に「金沢大学角間口」バス停を新設!

県道金沢・井波線沿いのコンビニエンスストア前に、バス停留所「金沢大学角間口」が新たに設置され、角間キャンパスと学生ライフエリアを結ぶバスがますます便利に。ぜひご利用ください!



携帯サイトはこちら!



<http://daigaku.kanazawa-u.jp/>

金沢大学の最新情報は金沢大学ホームページからご覧いただけます。 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>



「Acanthus」は、古代ギリシア・ローマに由来する植物で、和名を葉薔(ハアザミ)という。金沢大学校章のモチーフになっていることから、キャンパス内施設に名称が用いられるなど、長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

〔表紙写真〕
医学部十全講堂
(宝町・鶴間キャンパス)
医学部のシンボルともいえる518人収容の大講堂。大学院入学宣誓式が行われます。モデルは本誌P.19に登場する医学部のサークル「ライブアイト」の皆さん。

〔編集後記〕
「鼎談」という、私にとって初めての試みを見せていただいた今号の特集。苦労しましたが、素敵な3人にご協力いただき、今まではできなかった金沢大学をお届けできたのではないのでしょうか?
研究施設ページでは、フロンティアサイエンス機構や子どもたちの発達研究センターなどが初登場。どうぞご覧ください!

2008

1月 January

- 12 → ミニ講演「マウスの遺伝子を操作してヒトの病気を解明—2007年ノーベル生理学・医学賞からの発展—」*
- 12 → フィルハーモニー管弦楽団 第68回定期演奏会(金沢歌劇座)★
- 19~20 → 大学入試センター試験
- 24 → がん研究所 金沢がん生物国際シンポジウム(医学部記念館)
- 26 → 合唱団 定期演奏会(石川県厚生年金会館)★
- 下旬 → 金沢大学派遣留学報告会

2月 February

- 2 → 白峰雪だるままつりin角間の里
- 9 → 宝生会 能楽発表会(石川県立能楽堂)★
- 16 → ミニ講演「石川県のアクセントあれこれ」*
- 18,25,3/3,10 → 公開講座「市民の学びとまちづくりII」*
- 25,26 → 入学試験 — 前期日程

3月 March

- 1,2 → 書道部 学外書展(ラプロ片町7階アートシアターいしかわ)★
- 4~9 → 美術部 卒展(金沢21世紀美術館)★
- 6 → 附属高等学校卒業式
- 7 → 合格発表 — 前期日程
- 10 → 附属特別支援学校卒業式
- 11 → 附属幼稚園卒園式
- 12 → 入学試験 — 後期日程
- 13 → 附属小学校卒業式
- 14 → 附属中学校卒業式
- 22 → 合格発表 — 後期日程
- 22 → 学位記・修了証書授与式(第1部 大学院・専攻科、第2部 学部・別科:金沢歌劇座)
- 29 → ミニ講演「学生フォーミュラ活動とものづくり」*

4月 April

- 7 → 入学宣誓式(学域:金沢歌劇座、大学院:医学部十全講堂)

発行日 2007年12月11日
発行 金沢大学広報課 〒920-1192 金沢市角間町 TEL:076)264-5024 koho@ad.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配布を希望される回覧会には有償で増刷いたしますので、所要数をご連絡ください。

探究心を支える「世界の研究拠点」へ

未知に対するあくなき探究心と、それを支える先端の研究施設。今号では、世界からの視点と、世界への視点、そして学生の視点を織り交ぜ、世界の研究拠点をめざす金沢大学に迫ります。



開かれた大学となるためには、海外の方にとって、研究しやすい環境を整えていくことが大切です。

——長野 勇

10年前に金沢に一目ぼれ。これほど真つすぐに文化を伝えようとしているまちは他にないと思います。

——アナンタナコム・パニダ

チェコの先生が金沢大学と私を結びつけてくれたことで、研究が大きく広がりました。

——シュワドレンカ・カレル

鼎談 「留学生から見た “世界の中の金沢大学”」

「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」をめざす金沢大学は、多くの留学生、外国人研究者を迎え入れています。今号では、大学院博士課程に所属する二人の留学生をお招きし、研究のこと、まちのこと、そして金沢大学が世界に向けて果たす役割について、研究・国際担当理事である長野勇先生をコーディネーターにお話を伺いました。

金沢大学での研究

長野 お二人の研究テーマを教えてくださいいただけますか？

パニダ 私の研究は「観光」を切り口として、日本人と日本社会を理解することです。修士の時は日本の旅行会社が、タイのどこどこをPRして日本人を集客しているのかを論文にしました。その結果、日本の旅行会社は「楽園」や「癒し」そして「隠れ家的」など、タイの表象を商品化していくことがわかりました。

今はその範囲を広げ、観光に留まらずビジネスやNGO、タイ通の人、そして団塊の世代の方がなぜタイにロングステイするのかなどについて、チェンマイに住む日本人を中心にインタビューしているところです。これまで20名ほどの方からお話を聞きました。

長野 日本の団塊の世代は昨年辺りから、どのように第二の人生を送るのかを模索することが流行となりつつあります。それに先駆けての研究ですね。今後注目されていく分野なのではないでしょうか。タイと日本はお付き合いが深いです。

パニダ 今年は「日タイ修好120周年」なんです。

カレル 私は計算科学科で、自然現象を計算式によって説明する、という応用に向けた数学を行っています。たとえば、「葉っぱの上には水滴が流れている」という現象などです。かなり難しい偏微分方程式があつて、それをどのように解析し、数値計算するかを研究しています。

このテーマは金沢大学にきてから着手しました。水滴は、表面と内部に分けて考えることや、どのようなモデル方程式を使えばいいかが分かり、計算の結果が出たんです。

長野 数式で表せる自然現象は、ごく限られたものであり、カレルさんがおっしゃった「葉っぱの上の水滴の動き」も数式とすると非常に難しいものがあると思います。今後、ここからどういった方向に研究を発展していきたいとお考えですか？

カレル 発展というと、少し違うかもしれませんが「心臓の新しい計算モデル」など、企業との共同研究も行っています。ただ、私自身は純粋数学が好きなので、基礎研究に残りたいと考えています。長野 基礎があつての応用ですので、若いうちにそこをしっかりと身につけておくことは、後の大きな財産となります。様々な人の考え方を取り入れながら、世の中の役に立つ研究を行っていくのはとても重要なことです。

Contents

P2-5 鼎談「留学生から見た “世界の中の金沢大学”」

P6-11 話題の研究室 クローズアップ

- 文学部 鏡味治也教授 かがみはるや
地域に飛び込み、異文化のすがたを捉える
- 自然科学研究科 荒井章司教授
海洋底を掘り進み、地球内部の謎に挑む
- 医学系研究科 稲垣美智子教授
患者さんの気持ちを理解する看護

P12-13 金沢大学研究施設ガイド

研究・国際担当理事
長野 勇
NAGANO Isamu

大学院自然科学研究科
シュワドレンカ・カレル
SVADLENKA Karel

大学院人間社会環境研究科
アナンタナコム・パニダ
ANANTANAKOM Panida

鼎談 「留学生から見た」世界の中の金沢大学

まちとひと—— 金沢大学を選んだ理由

長野 お二人はなぜ、今の研究で金沢大学を選んだのですか？

パニダ 金沢というまちが好きだからです。10年前、「ジャパネット」というイベントで初めて金沢に来たのですが、そこで金沢に一目ぼれしました。チャンスがあればこのまちに住んでみたい、な、とその時から思い、金沢大学を受験しました。大学も自然に恵まれ、いい環境で学ばせてもらっています。

カレル 私は入学以前に2回来日したことがあり、それ以来、日本で勉強したいと思っていました。そんな時、チェコの先生に紹介していただいたのが、金沢大学の小俣正朗先生（自然科学研究科）だったのです。先生は純粋数学だけではなく、企業などの実用的な知識も豊富ですから、モデル開発や方程式の解析、数値計算や企業との共同研究まで全ての段階を十分に指導していただけます。日本の様々な分野だけではなく、海外にも知り合いが多く、「外の世界」との交流も充実しているんです。

やはり、良い先生が居ることで金沢大学にはたくさん留学生や研究者が集まるのだと思います。

長野 世界に通用する教員が金沢大学にいる、そして金沢は美しいまちである。それらをいかに伝えていくか、ということですね。

パニダ 私がなぜ金沢を好きになったのか。それは、これほど真つすぐに文化を伝えようとしているまちには他にないと思うからです。そのまちにある大学として、金沢大学はどうやって地域をサポートしていくのか、それを示すことも、大学の魅力表現することだと思っています。

長野 金沢大学の社会貢献をもっと表に出していかなければならない、ということですね。

パニダ ホームページでもっとアピールすると思います。私はチェンマイ大学を卒業したのですが、母校も社会貢献の精神を金沢大学に習ってほしいと思っています。

カレル 私は金沢大学と協定大学のカレル大学（プラハ）を卒業しました。協定校であるということも、金沢大学に入学するきっかけとなりました。

長野 金沢大学もほとんどん世界の大学と協定を結んで、留学しやすい環境を作らなければなりませんね。では、実際に金沢大学にきて良かったところはあるますか？

金沢大学は、留学生を増やしていく、大学間交流協定校を増やしていく、研究者交流や派遣受け入れなどをしっかりとやっていくなど、世界に向けて「開かれて」いかなければいけません。研究面では、世界に通用する科学者を育成するため、海外の若手研究者も含め、世界公募のテニユア・トラック制度[※]を立ち上げ、科学雑誌「Nature」にも公募を掲載しました。また、その支援組織としてフロンティアサイエンス機構を今年の4月に発足させ、世界規模の研究拠点形成を着実に進めています。

この取り組みが進み、世界規模の研究拠点が出来上がれば、それが大学の魅力となり、さらに世界から優秀な人材が集まるようになるでしょう。パニダさんがおっしゃったように、大学の「中」のサポートを充実させ、海外の方にとって研究しやすい環境を整えることは、今後とても大切になってきますね。

パニダ そう言っていただけだと、金沢大学の看板を背負って帰国する我々留学生も、自分の国や地域で、金沢大学を紹介しやすくなると思います。

長野 人は人を呼ぶ、ということですね。



$$\chi_{u>0} u_{tt} = \Delta u - \gamma \chi_{u>0} + \chi_{u>0} \int_{\Omega} (u_{tt} u + |\nabla u|^2 + u \chi'_{>0}) dx$$

世界へ伝える学問と文化

長野 お二人はこれからどのような将来を歩もうとお考えですか？

パニダ 今は日本社会の研究をしていますので、タイに戻ったら、それを伝える側になりたいと思っています。タイでは、アニメや音楽などのポップカルチャーから日本に興味を持ち、日本語を学び始める人が多いのですが、それだけではない、もっと深い日本を、私の知っている限りで伝えていきたいなと思っています。その時は「これが日本文化だ」と断定的に伝えるのではなく、大学で、様々な議論を通してできた概念を、同じように議論を通して伝達していきたいと考えています。

カレル 私はまだ日本に残るか、チェコに帰るか決めかねているのですが、どちらにしても、数学の研究を続けていきたいと思っています。実はヨーロッパでは、日本

のドクター（博士号）はあまり価値がないという偏見があります。ですから日本の数学のレベルをチェコに紹介しなければいけませんね。日本の研究室もチェコの研究室もレベルに差はないのですから。

長野 これは留学生の果たす役割の大きさを痛感しますね。ここで学んでいったことを学問だけでなく、その背景にある文化も広めてくださるというのは本当にありがたいお話です。私も研究・国際担当理事として精一杯サポートしていきたいと思っています。

※1 テニユア・トラック制度
任期付き教員として採用された若手研究者に特別な研究資金を与え、研究成果に基づいてテニユア准教授または教授に移行する制度。



アナンタナコム・パニダ
ANANTANAKOM Panida

大学院人間社会環境研究科博士後期課程2年
タイ出身。チェンマイ大学を卒業。専門は文化人類学。タイに多くの日本人観光客が訪れる現象に興味を持ち、現在のテーマに着手した。



シュワドレンカ・カレル
SVADLENKA Karel

大学院自然科学研究科博士後期課程3年
チェコ出身。プラハのカレル大学を卒業。専門は計算科学。父母ともに原子物理学を学んでいたため自身も数学に興味を持つ。



長野 勇
NAGANO Isamu

金沢大学研究・国際担当理事
金沢大学を卒業。ロケットや衛星を使って宇宙の仕組みを調べる「スペースサイエンティスト」。NASA（アメリカ航空宇宙局）からグループ業績賞を受賞している。



独自の文化を維持する バリ島

鏡味先生はインドネシアの「バリ島」を、文化人類学の視点で研究している。

インドネシアの歴史は古く、日本がまだ邪馬台国だった時代から王国があり、多くの島には様々な文化や遺跡が残っている。中でもバリ島は「コンパクトな島に独特の民族文化が残っている場所」だ。なぜ、バリが独自の文化を維持できているのか。その答えを探すため、また、文化そのものを調べるため、土地の生活を丹念に拾い上げていくのが先生の研究である。

生活を知る文化人類学

インドネシアの9割がイスラム教を信仰しているが、バリはヒンドゥー教だ。それは、観光地となる前のバリには特産品がなく、商業をベースとするイスラム教が伝わらなかったためだ。このように文化人類学では、宗教を知り、歴史を知り、経済や地理的要因を把握しながら文化の動きを理解していく。先生のバリ研究は1981年から始まっている。すでに20余年も

プロジェクト研究が 変える大学院教育

世界をフィールドに活躍する一方、先生は大学院教育にも力を入れている。現地調査が研究の中心となる文化人類学では綿密な研究計画の作成を要する。しかし大学院では論文指導に重点が置かれ、計画の立て方など、基礎知識は研究者が自ら身につけるものとされていた。

そのような状況をふまえて「現地調査のプロ」である先生を中心に、「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」という教育プログラムが提案され、平成19年度の大学院G P[※]に採択された。この取り組みは、学生が将来、研究者や社会人として自立していくために必要となる調査研究の立案・マネジメント能力の育成を目的としている。いかに自分の研究の面白さをアピールし、研究資金を獲得するか。遅滞なく、計画に沿って調査研究を実行し、結果の評価を受けるのか。そんなプロジェクトの実行能力を大学院で養おうというのだ。「大学院にいる間に、自分のキラリと光る部分を見つけて欲しい。そして、それを表現する力を身につけて欲しい」と先生は学生たちに期待する。

※1 大学院G P
大学院教育改革支援プログラム。社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成するために、大学院博士課程、修士課程の優れた組織的・体系的な教育取組に対して重点的な支援を行う制度。

話題の研究室クローズアップ

地域に飛び込み、 異文化のすがたを捉える

バリに通い続けているのだが、まだまだ新しい発見があるという。それは現地で人が生活している限り、文化は生まれ続け、変わり続けるためだ。

インドネシア随一の観光地となったバリ。近代化と伝統との間で揺れ動く島の文化を見つめていくこと。それが研究の大きなテーマである。

違うことは面白い

文化遺産の活用調査や、葬儀の研究、現地で発行される週刊誌の考察など、様々な切り口でバリの文化を明らかにしてきた先生は、「自分とは異なった人がいて、土地がある。だから面白いんです」と、文化人類学の魅力を語る。

ヨーロッパから「生きた博物館」と形容され、様々な研究が行われてきたバリは、その研究結果すらも取り込んで変わり続けている。「でも、どれだけ変わっても、バリは決して「バリらしさ」を失わないんですよ」。そう語る先生の、次の調査対象は「言語」。現地語とインドネシア語の使用比率を調べ、文化が若い世代にどう受け継がれているのかを考察する。これからも先生はバリの変化を見つめ続けていく。そして魅力あふれる、違いを見つけていくのだ。



文学部
鏡味治也 教授
Professor KAGAMI Haruya

文化人類学を専攻。大阪万博が開催された1970年に青春を過ごし、当時注目されていた文化人類学を志す。2008年度より、人間社会学域 地域創造学類を担当。



① バリ島の棚田風景
② ヒンドゥー寺院での祭礼風景
③ 文化人類学研究室には、大学院生・那須雄一さんが描いた先生たちの似顔絵が飾られている



③

研究室へ潜入！ 鏡味先生とは？



——ゼミの雰囲気は？

メンバーが各地でフィールドワークをしているので、世界中の珍しいお土産が集まりますし、土産話も国際色豊かです。

——鏡味先生ってどんな人？

いつもにこにこ、穏やかな先生ですが、その笑顔のまま、的確で、厳しい指摘が飛ぶことがあります。

.....
お酒を飲んでも、先生は普段とあまり変わらないのですが、笑顔はより一層輝きますね。



掘削船「ちきゅう」 写真提供: JAMSTEC

桃と地球の関係

地球を輪切りにすると層状の構造が現れる。桃とよく似ているでしょう?。荒井先生はそういつて笑う。薄い皮が「地殻」で、果肉は「マントル」、中心部の硬い種は「核」にあたるという。「私の研究するマントルですが、マグマのようにドロドロしたものを想像する人が多いですね」。しかし、実際は「氷河」のように硬いもので、ゆっくりと対流することで地殻を動かす、大陸の移動や火山活動、地震など、様々な地学活動を生み出している。

マントルをめざすIODP

人類は未だ地下のマントルを直接手にしたことがない。先生のような専門家たちでさえ、研究材料は地殻変動で地上に押し上げられた、冷えたマントルなのだ。そこで、自分の足元―地球内部をもっとよく知ろうと、世界各国が協力して推し進めるプロジェクト「統合国際深海掘削計画(IODP)」が2003年に発足した。IODPは掘削船を用いて海洋底を掘ることで、地球環境変動や地球内部構造の解明をめざす。寄せられる期待は大きい。「間接的にでも、地球内部は桃のようであり、果肉部分のマントルは対流している硬い物質とわかるのです。実際に掘ることができれば、どれだけのデータが得られるのか想像もつきません」。そういつて先生は瞳を輝かせる。

掘削船「ちきゅう」

なぜ海洋底を掘るのか。海は地球の約7割を占める。へこみであり陸とは異なった歴史と情報を持つ。また、海洋底の地殻は薄く、地上を掘るより、マントルへと到達できる可能性が高いからだ。

「日本はちきゅうという最新の掘削船でこのプロジェクトを引っ張っているんですよ。先生も乗り込む「ちきゅう」は日本が誇るIODPの主力船である。

その特徴は、水深2500m(最終目標4000m)の海底を7000mも掘り進むことのできる掘削能力にある。実に富士山3個分。それだけの距離を経て、ようやく人類は桃の皮に穴をあけ、果肉に到達することができる。

数年から10年先「ちきゅう」は世界で初めて地殻を貫き、マントルを手にする。地球内部に対する理解が飛躍的に高まるその瞬間に、先生はプロジェクトの中心人物として活躍しているのだ。

自然科学研究科

荒井章司 教授

Professor ARAI Shoji

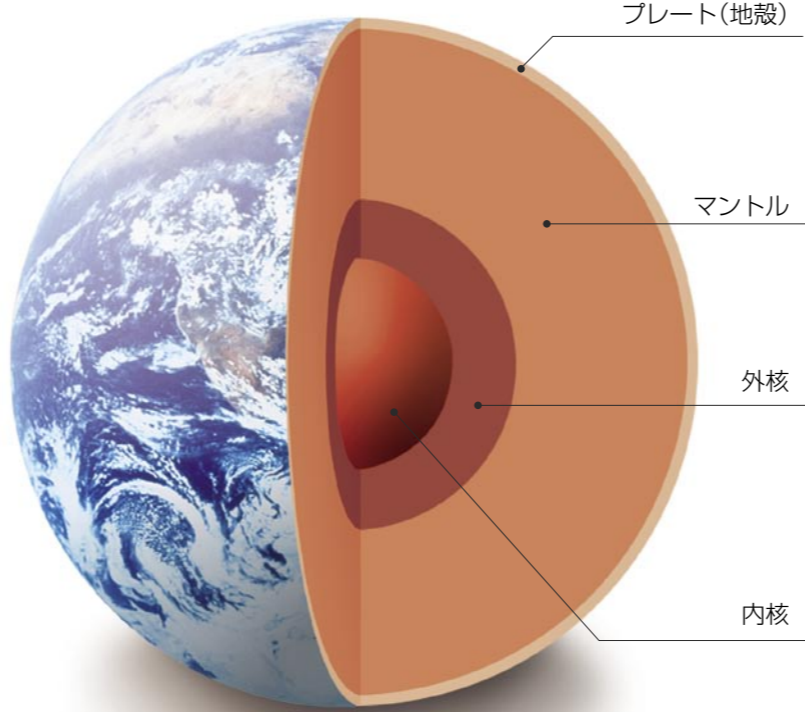
岩石学を専攻するマントルの専門家。日米が主導し世界16カ国が参加している国際プロジェクト「統合国際深海掘削計画(IODP)」において、夢の「モホール計画」*1の実現をめざしている。

※1 モホール計画

1959年に提唱されたマントルへの到達を目標とする計画。掘削船「ちきゅう」と荒井先生は、およそ50年の時を経てその実現をめざす。



地球内部の構造



壮大な地球

自然が好き。野外で活動することが好き。そう語る先生は「壮大な地球」を日々実感している。泥が少しずつ堆積して厚い泥岩を作る。大陸が少しずつ動いてやがては衝突する。それには数万年という気の遠くなる時間が必要だ。

「地球を見続けることにより、その年月を、実感として理解できます。それにより、人類が地球に及ぼす影響を長いスパンで考えることができるようになるんです」。

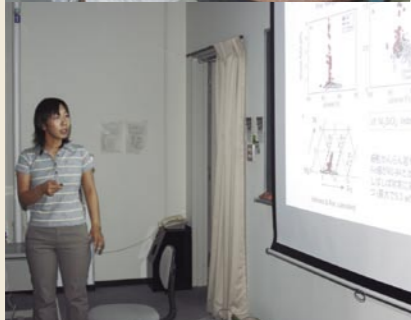
その感覚こそが、先生が、学生に伝えていきたいことなのだそうだ。

「そして、すべての人は地球科学者としての素質を持っているんです」。

登山が好きなのは、山頂の石を持ってくればよい。写真が得意なら、資料を綺麗に撮影することができる。地球と無縁に生きている人がいない以上、あらゆる人が、地球科学者になれるのだ。

海洋底を7km掘ること。6400kmの半径を持つ地球から見れば、それは掘削とは呼べない深さなのかもしれない。しかし、その7km先には人類のまだ見ぬ夢が詰まっているのだ。

研究室へ潜入! 学生が語る 荒井先生とは?



— この研究の魅力は?

とても綺麗な岩石に出会えることです。

— 国際色豊かな研究室ですね

インターネットのランキングなどでもこの研究室は上位にランクインしていますからね。世界でも知られているんですよ。

— 荒井先生ってどんな人?

妥協を許さない人です。努力する天才ですね。



②オマーンでの過去の海洋底の調査③オフィオライトと呼ばれる過去の海洋底の露出(オマーン)④日本列島下のマントル由来と考えられる岩石の薄片(偏光顕微鏡写真)⑤枕状溶岩と呼ばれる過去の海底での噴火を示す溶岩(オマーン)

①IODPにおける大西洋上の研究風景。荒井研究室の学生も参加

海洋底を掘り進み、

地球内部の謎に挑む

患者さんの 気持ちを理解する 看護

「糖尿病」
知れば知るほど大変な

糖尿病とは、すい臓から分泌されるインスリン(血糖値を調節するホルモン)の量が減る、あるいは効きにくくなる病気だ。自己免疫異常で起こるとされる1型と、生活習慣がひとつの要因となる2型とがあり、根本的な治療法はまだ発見されていない。

そのため「将来有効な治療法が見つかるまで、患者さんを最善の状態に維持すること」が治療の目的となる。「知れば知るほど大変な病気ですね。慢性疾患の中でも特に糖尿病の看護を研究する稲垣先生は、この病気をどう表現する。看護師から見た糖尿病。それはどんな病で、先生はどのようなアプローチを行っているのだろうか。

糖尿病の看護とは

糖尿病は、血糖のコントロールによって進行を遅らせることができる病気だ。そのため、運動療法や食事療法を紹介し、患者さんの「生活習慣」を変えることが看護師の主な役割となる。

しかし、長年続けてきた生活を変えるのは大変だ。完治の術がまだなく、治療の間もゆっくりであればなおさらだろう。

糖尿病看護では、そんな状況に置かれた患者さんの気持ちを理解し、治療に対する意欲を持ち続けてもらうことが大切になってくる。

糖尿病の「質的研究」

しかし、意欲を維持するための動機付けは当然、患者さんごとに、そして症状ごとに異なる。「自己管理のできない人に見られるのでは?」。そんな思いから病気を公表せず、悪化させる患者さんがいる。逆に、「もう何年も糖尿病と付き合っているんだから、これくらい大丈夫だよ」と、過度に楽観的な患者さんもいる。

糖尿病の看護には、彼らが抱く様々な気持ちを理解する必要があるのだ。

そのため先生は患者さんに対する取り組みと、その結果を詳細に記録する「質的研究」に取り組んでいる。

病気を公表できない患者さんにはどんな支援が必要なのか。病状を楽観視する患者さんにはどんなアドバイスが適当なのか。



針やチップがセットになった血糖測定器 インスリンを自動注入する小型ポンプ

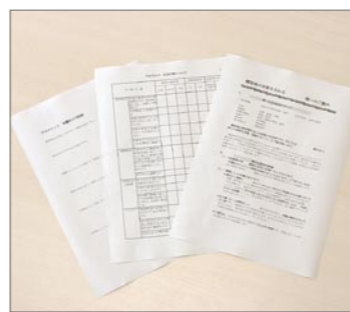
稲垣マジック

質的研究は、すべての看護師が、患者さんの気持ちを理解する助けとなるように、彼らが日々の生活で感じていることを把握し、リアリティーを持った糖尿病患者像を描き出すことを目的としている。

質的研究には医師との連携も欠かせない。

糖尿病は様々な合併症を引き起こす病だ。尿に微量なタンパクが検出された―。合併症の微かな兆しを医師が捉え、看護師が対策と告知のタイミングを計り、結果を記録として残す。そんなきめ細かな取り組みが、先生を中心に行われ、データとして蓄積されているのだ。

先生の研究室には「稲垣マジック」という言葉がある。運動療法や食事療法を拒む患者さんが、先



糖尿病患者の声を聞く質問用紙

生と面会すると態度が一変。それらに熱心に励むようになったため、驚いた医師が命名した言葉なのだ。

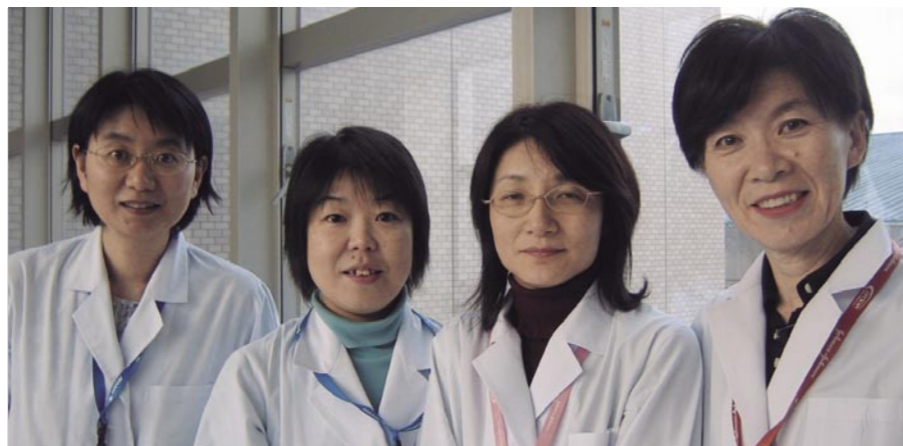
「患者さんの気持ちを理解することができれば、その人にとって最適な看護ができるんですよ。」

患者さんの元気な姿を見ることが、自分も元気をもらえると先生。質的研究が完成すれば、誰でも「稲垣マジック」が使えるようになるのかも知れない。



医学系研究科
稲垣美智子 教授
Professor INAGAKI Michiko

看護、看護サービスが専門。
1型糖尿病の子どもたちと、キャンプで共同生活をしたことをきっかけに、慢性疾患の研究を始める。



稲垣先生と糖尿病研究を支えるスタッフの皆さん

研究室へ潜入! 学生が語る 稲垣先生とは?



――「稲垣マジック」を感じる瞬間は?

論文で先行きが見えなくなったとき、先生に会いに行くと、ほっと元気になって、「また頑張ろう」って思えるんです。

疲れているときに会いに行くと、なぜか分からないけど元気が出ます。そんなオーラを感じます。

先生に会うだけで危機的状況も、「何とかなるかも」って気になりますね。

1 がん研究所

国立大学唯一の「がん研究所」

昭和42年に設立され、新しい抗がん剤の開発や、がん転移に関わるタンパク質分解酵素の発見、がん細胞が新しく血管を作るメカニズムの解明など、がんの基礎的研究を中心に、大きな成果を上げてきました。平成18年には遺伝子研究の急速な進歩にあわせ、2 大部門2 センターに改組。理工系の出身者から臨床医まで、幅広い分野の研究者が集合しました。今後は分子標的の探索的基盤研究など、遺伝子情報を基にした、より「がんの本質」に迫る研究を行い、がん撲滅に向けた動きを加速させていきます。

2 フロンティアサイエンス機構

(本部棟5F)

研究者を育て、世界的研究拠点を形成

フロンティアサイエンス機構(FSO)は、各研究分野を越えた新しい融合領域を創出し、本学の教育および研究に関し新たな総合性を生み出す組織として、2007年4月に設置。重点研究プログラム等を推進する教員とテニユア・トラック制度で世界から公募した優秀な若手研究者が所属しています。FSOは重点研究プログラム等を推進し、世界的な教育研究拠点に形成することを目的とした組織です。また、若手研究者の研究を支援するだけでなく、研究をサポートする研究支援専門職の育成も行っています。将来的には、研究に関する

る助言や研究費の管理といったマネージメント業務全般を担当する組織に発展することが期待されています。

3 子どものこころの発達研究センター

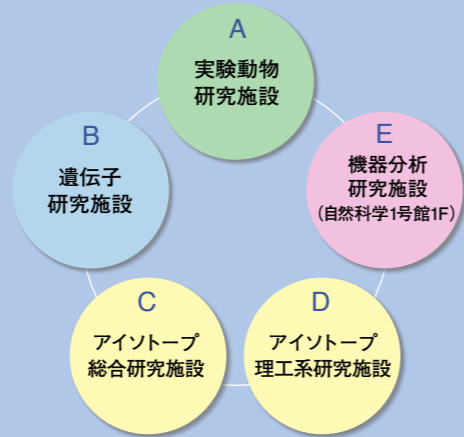
(医学部E棟6F)

21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」の拠点形成活動の中から2007年10月に設置されました。若者による凶悪犯罪や自閉症・アスペルガー障害・注意欠陥多動性障害・コミュニケーション障害などの発達障害がなぜ起きるのかといった科学的なメカニズムを追究し、問題を解決することを目的としています。特に哺乳類の社会行動を規定する脳内物質の働きを解明し、親子の愛情を知り他者を信頼できる「こころの回復」をめざしていきます。



4 学際科学実験センター

5 研究施設を持つ総合センター



遺伝子改変動物、ゲノム機能解析トレーサー情報解析、そして機器分析の研究分野があり、5つの研究施設で、金沢大学の医学・自然科学系の研究支援・促進を担っています。また、研究に用いられる放射性物質や、実験動物、組み換えDNAに対する安全管理を一元化して担うという大切な役割も持っています。



5 総合メディア基盤センター

金沢大学の情報を支える

情報教育と情報基盤管理、そして情報システムの研究開発を目的としたセンターです。ICTの推進や、そのための基盤整備、無線LANアクセスポイントの整備によるキャンパスのユビキタス化等、学内の情報システムを、ソフト・ハードの両面から支えています。また、世界が注目する月探査衛星「かぐや」に搭載された「月周辺の自然電波を観測するセンサー」の開発者らが在籍。一流のスタッフによる研究活動も盛んです。



6 共同研究センター

大学の研究と社会をつなげる

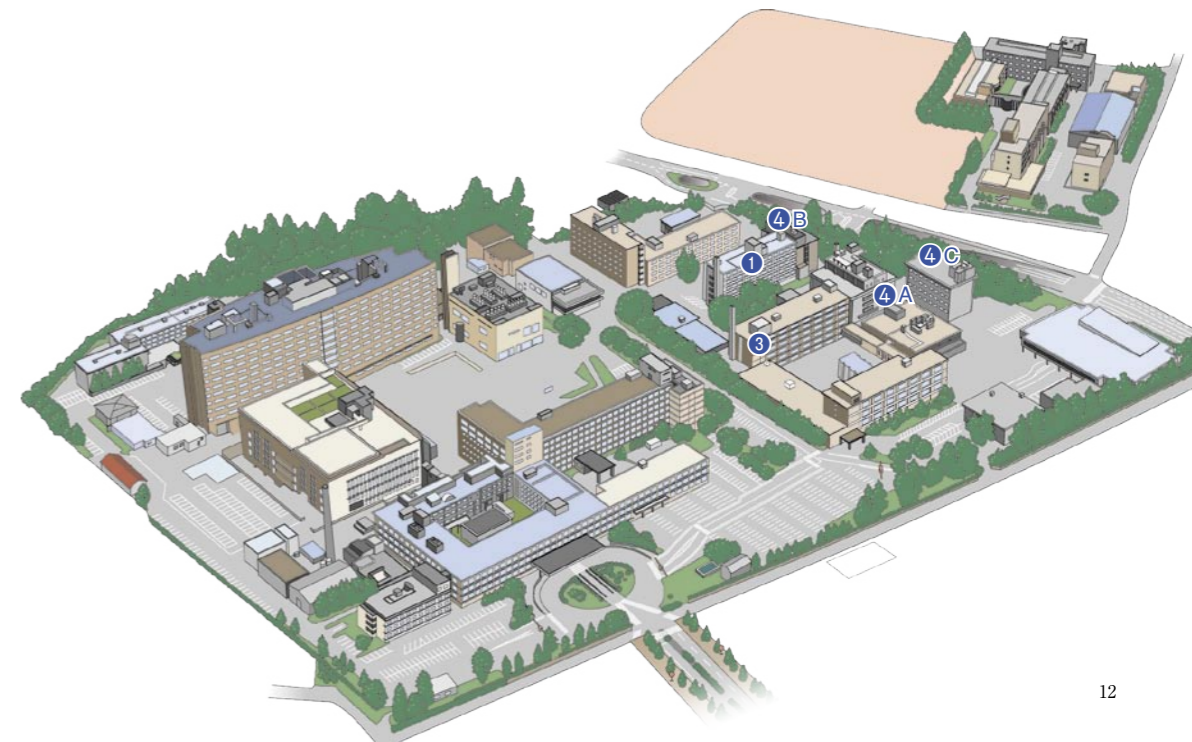
地域産業の活性化のために、大学と民間企業との共同研究を促進する目的で設立されました。新たな事業展開をしたい、目的はあるが進め方が分からない、新しい技術を開発中だが行き詰っている。そのような企業と、大学の研究者とのコーディネートを行います。また、展示会などイベントに参加し、大学のユニークな研究成果を広めることや、企業を訪問して議論を深めるなど、積極的に大学の研究を広報しています。



金沢大学 研究施設ガイド

心と体、地域や世界、地球、そして宇宙。
金沢大学では、総合大学として様々な分野を対象に研究が行われ、日々「世界に誇る知の創造」が行われています。
このページでは、多彩な研究施設を紹介します。

宝町・鶴間キャンパス
Takara-machi・Tsuruma Campus



角間キャンパス

- 7 外国語教育研究センター (総合教育棟 南棟2F)
外国語教育法の研究と、異文化理解教育の推進を担当しています。
- 8 環日本海域環境研究センター
環境変動の計測を通して環境問題に挑みます。
- 9 極低温研究室
絶対零度付近で見られる物質の振る舞いの変化を追います。
- 10 埋蔵文化財調査センター
大学構内の埋蔵文化財を調査・保護し、出土した資料を教育研究に活用します。

Kakuma Campus

- 11 インキュベーション施設
産学連携の推進と本学のシーズを活かしたベンチャー育成の場です。
- 12 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
研究成果の事業化や、起業を志す学生の支援等を行います。
- 13 大学教育開発・支援センター (総合教育棟 南棟6F)
大学教育改革のためのカリキュラム、授業方法および学生支援の改善などについて研究しています。
- 14 技術支援センター
研究・教育・技術支援のための各種工作関連機器があります。



ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー 技術支援センター精密加工室 極低温研究室ヘリウム液化システム 埋蔵文化財調査センターによる調査風景





金沢大学が総力を挙げて取り組む 能登半島地震

— 学術調査・研究の全貌 —

能登半島地震が発生して、11月で早8ヶ月が経つ。復興は徐々に進んでいるが、今なお自宅に帰ることのできない住民もいる。現在、金沢大学は、能登半島地震対策本部学術調査部会を組織し、26グループ、130名以上の教職員による学術調査を継続して行っている。将来に起こりうる震災の被害の軽減につながるように、1日でも早い復興に貢献できるように、研究成果を積み重ねていく。

ケアや予防に向けた健康被害調査

能登半島地震による高齢者の長期的な健康被害を予防する調査研究

8月中旬、医学系研究科・神林康弘講師(予防医学専門)と学生7名は、輪島市門前町の仮設住宅を訪れた。仮設住宅で生活している高齢者の方を対象に、震災によるPTSD(心的外傷後ストレス障害)や運動不足による健康被害がどのように起こっているかを調べた。それに対するケアや予防など支援のあり方を探るためである。「地震の前と比べてお酒の量は増えましたか、変わりませんか?」「体重は変化しましたか?」「寝つきが悪くなったり、すぐ目を覚ますようなことはありますか?」「など、ありとあらゆる項目から体調の変化を探っていく。質問表に記入してもらったのではなく、学生が一人ひとりと直接対話することにより、質問表だけでは見えないことも分かっていた。

須田烈史さん(医学部4年)は、「地震のことを話し始めると止まらない方もいますし、つらくなるので話したくないという方もいます。ドンと大きな音がしたり、少しでも揺れると、また地震が来たのかと敏感に反応する方も多かったです」と調査を振り返る。

今回集められたデータについて、医学系研究科・中村裕之教授を中心としたチームで統計解析を行い、地震による健康被害の要因を把握していく。そして、それをもとに、適切なケアや予防を考え、今後の災害に役立てるようしていきたいと意気込んでいる。



地域の声を直接聞き取り、ニーズにもとづいた復興支援へ

震災がもたらした生活被害を解明

生活被害と生活・復興支援制度の実態把握と復興策の調査研究

能登半島地震の最大の特徴は、それは、過疎・超高齢化地域に発生したということである。震災が引き金となり、高齢者を中心とした被災者が出て行ったら、地域はどうなるのだろうか。

法学部・井上英夫教授(福祉政策論・社会保障法専門)は、地域が必要としているのは単なる「震災からの復旧」ではなく、人々が安心して住み続けられる「地域の復興」と考え、住民のニーズを把握するため、経済学部・横山壽一教授(社会保障論専門)と学生10数名、そして金沢大学卒業生、金沢市民を中心とした医療・福祉問題研究会のメンバー10数名とともに、4月から聞き取り調査を続けている。

「経典」から再発見も。文化財修復

常徳寺所蔵「黄檗版大蔵経」の調査・修復・整理

志賀町鹿頭の常徳寺には、江戸後期から明治初期にかけて活躍した、浄土真宗大谷派の学僧・得住が収集した江戸時代の経典「黄檗版大蔵経」が残されている。経典全2095冊は、277箱に分けて経蔵に収められていたが、激しい揺れにより無残なほどに散乱した。

住職と志賀町教育委員会、高岡市在住の仏教研究者を介して、金沢大学文学部比較文化研究室に整理と修復を依頼。文学部の森雅秀教授(仏教学専門)は、整理と修復だけでなく、寺に残る寄進札や文書の調査も実施すべく、平瀬直樹准教授(日本中世史専門)、D・K・アンドリュース准教授(日本民俗学専門)、比較文化・日本史・日本語日文学を専攻する学生16名を伴い、8月初旬に現地へ赴いた。

経典の修復を担当した学生たちは、経典を1冊ずつ手に取り、埃を払い、剥がれた紙片や見返し、表紙を接着。すると、あちこちに得住本人と見られる書き込みが見つかり、これらが「手拭本」※として唯一無



経典が収められていた常徳寺の経蔵



経蔵の中に置かれていた書物の一部。得住による朱書きの書き込みが見られる

そこから見えてきたのは、従来からあった農村部の産業の衰退、過疎・高齢化の問題が、震災を機に一層浮き彫りになり、拍車がかかっているという実態であった。仮設住宅に暮らす住民の多くは、自宅に戻ることを望んでいるが、高齢者・年金暮らしの人が多く、住宅再建のめどがなかなか立たない。さらに、輪島市門前町道下地区はかつて左官・大工など建設業が盛んだったが、公共事業の削減などで地元建設業は衰退し、県外の業者が住宅再建を担っている。また、現在では農業で生活していく見通しを立てることも容易ではない。

井上先生は、地震発生から1年が経つ2008年3月に、具体的な地域復興策を提言する計画だ。そして、能登が完全に復興するまで、何年も調査を続けていきたいと考えている。

二の価値があることが分かった。調査を担当した学生たちは、寄進札の写真撮影と転写を行い、経蔵に残されていた様々な文書を調査。そこには、キリシタンや西洋文化の批判書、和歌の理論書など仏教や浄土真宗とは直接関係のない文献が多数存在した。調査からは、江戸時代の知識階層の研鑽にかける姿が見えてきた。

現地では、常徳寺の檀家に向けて、調査・修復の趣旨や活動内容についての説明会も実施。参加者からは熱心な質問が相次ぎ、これがきっかけとなり、寺の歴史や得住の存在に光が当たることが期待されている。

※1「手拭本」
著名人やその本の著者が手元において愛読した本。

研究・調査・活動記録

(2007年7月~11月)

7/1 ○宇野文夫客員教授(地域連携・メディア専門)ら「震災とメディア研究班」が、「新聞研究」7月号と「NEW MEDIA」8月号でメディアの被災地での役割を中心に中間報告を発表

7/25 ○「地球科学」の特集号「2007年能登半島地震その1」が刊行。9/25にはその2が刊行。田崎和江教授(地球環境科学専門)、奥野正幸教授(鉱物学専門)、破山洋教授(放射線専門)、小村和久教授(環境放射線専門)、中西孝教授(放射化学専門)、早川和一教授(環境影響評価専門)、平松良浩准教授(地震学専門)、福士圭介助教(地球化学専門)、唐草助教(環境動態分析専門)、稲垣美幸研究員(西川方敏研究員、大久保弘研究員、大学院自然科学研究科の野村正純さん、馬場奈穂子さん、佐藤和也さん、森井一誠さん、楊小陽さんが論文を発表

7/27 ○林紀代美准教授(人文地理学専門)が、金沢市中学校社会科連盟の地域調査講習会で、津波の危険性や避難経路・場所を考える大切さについて紹介

8/3-4 ○城戸照彦教授(環境保健専門)、表志津子講師(地域看護専門)、大倉美佳助教(地域看護専門)と学生10名が、輪島市・黒島町で「震災4ヶ月後の地域住民の生活状況と健康状態」について調査活動を実施。11/10・11には継続調査を実施

8/8-9 ○「能登半島地震パネル展」を金沢大学オプンキャンパスに合わせ開催。8/18・19には、地学団体研究会2007年大阪総会において開催

8/21 ○村田昂助教(地震防災工学専門)が、津幡文化会館シグナスにて、能登半島地震被害について報告

8/24~26 ○青木賢人准教授(自然地理学専門)と林准教授が、津波対策施設の見学と比較検討を目的に、岩手県・宮城県の三陸沿岸の現地調査を実施

9/9 ○田崎教授が、日本地質学会で塩害について論文を発表

9/11 ○青木准教授が、クリエイティブライフ講座にて、輪島市・志賀町の中学生およびその保護者の地震発生時の避難行動について紹介

9/25-26 ○宮島昌克教授(地震工学専門)、村田助教と学生4名が、日本自然災害学会において、地震被害調査および観測調査について報告

9/27-28 ○川上光彦教授(都市計画専門)と学生3名が、震災復興のための都市計画「まちづくり」の支援を目的として、輪島市で現地調査を実施。10/29・30には第二次調査を実施

10/6-7 ○青木准教授と林准教授が、日本地理学会秋季学術大会にて、地域環境に配慮した防災教育支援などについて報告

10/21-22 ○宇野客員教授ら「震災とメディア研究班」が、震災復興の地域連携をめぐる能登と新潟の比較調査のため、新潟県中越沖地震の被災者ヒアリングを実施

10/24 ○河野芳輝名誉教授、平松准教授のグループが、仙台市で開催された日本地震学会において、能登半島地震震源域周辺の重力異常について報告

10/26-27 ○林准教授が、地域漁業学会宮崎大会にて、漁業者とその家族の津波避難行動調査の結果を報告

10/31 ○破山教授が、門前町区長会長の皆さんから、地区ごとの課題などについてヒアリングを実施

11/13~15 ○宮島教授、村田助教と学生1名が、日本地震学会大会2007において、地震被害調査および観測調査について報告

11/18 ○輪島市で、シンポジウム「震災とセーフティ・ネットを考える」人間と地域復興の視点から」を開催

Q5

金沢でおすすめの場所は？

兼六園・金沢城公園 180名

- 1位 兼六園・金沢城公園 180名
- 2位 堅町・片町界隈 117名
- 3位 金沢21世紀美術館 90名
- 4位 ひがし・主計町茶屋街 59名
- 5位 厚川・浅野川河川敷 50名
- 6位 近江町市場 47名
- 7位 武家屋敷跡界隈 29名
- 8位 伝統工芸や芸能の体験スポット 13名
- 9位 金沢市民芸術村 9名



金沢といえば、やはり「兼六園・金沢城公園」。「いまどき金大生」は、かつて金沢城内に金沢大学があったことを知っているのでしょうか？新しい金沢の顔「金沢21世紀美術館」が堂々の3位です。5位の「浅野川」は、金大生が多く住む「杜の里」を流れ、春になると河川敷でお花見をする金大生がたくさんいます。

Q6

自分のブログを持っていますか？

はい 37名	いいえ 288名	未解答 32名
-----------	-------------	------------



「金沢大学理学部数学科」
<http://blogs.yahoo.co.jp/yamabun0705010025/>



「Chiro's Bar」
<http://blog.goo.ne.jp/chiro1012/>

ブログには「いまどき金大生」のリアルな日常がアップされています。「金沢大学理学部数学科」での月に1回の公開家計簿は参考になります。「Chiro's Bar」は飼い猫チロの日常が綴られています。チロ、かわいい！

Q7

いつもチェックしているウェブサイトは？



mixi -ミクシー- 40名

<http://mixi.jp/>

レポートを作成し、課題を提出するためのツールとして、いまやパソコンは大学生の必須アイテム。もちろんインターネットも楽しんでいます。1~3位までは、インターネットユーザーにはおなじみのサイトですね。金沢大学ホームページも見て、大学の最新情報をチェックしています！

- 1位 Yahoo! JAPAN 25名
- 2位 YOU TUBE 11名
- 3位 mixi 10名
- 4位 金沢大学ホームページ 9名
- 5位 ニコニコ動画 8名
- 6位 自分が所属する部活のホームページ 4名

Q8

最近のおすすめの本は？

- 1位 恋空-切ナイ恋物語 8名
- 2位 「ハリー・ポッター」シリーズ 6名
- 3位 博士の愛した数式 3名
- 4位 秘密 3名
- 5位 グッドラック 3名
- 6位 手紙 3名
- 7位 恋空 2名
- 8位 東京タワー 2名

180冊以上のタイトルがあげりましたが、見事1位に輝いたのは「恋空」。金大生も「せつない恋」に心打たれたようです。作家別に見ると、東野圭吾がもっとも人気がありました。「秘密」「手紙」など、たくさんタイトルが選ばれました。



学生と大学を結ぶ アカサスポータルでの交流を生む！
キャンパス内

いまどき金大生「Webアンケート集計結果」

“いまどき金大生”のリアルな姿を探るため、アカサスポータル^{※1}を利用してアンケートを実施しました。キャンパスの中で、金大生はどんなふうに過ごし、何を思っているのでしょうか？

マチの中では、どんなことに興味を持っているのでしょうか？あなたが想像していた金大生”と比べてみてください。(アンケート期間:2007年10月2日~5日)



※1 アカサスポータル 金沢大学が提供する学生支援のためのシステム。教員と学生全員にIDが発行され、電子掲示板やメッセージ機能を使ったコミュニケーション、授業での配布資料の共有、自らの成長が実感できる授業活動記録などが行われています。

回答者の383名って？		■ 学部 ● 文学部 43名 ● 医学部 49名 ● 教育学部 49名 ● 薬学部 32名 ● 法学部 48名 ● 工学部 72名 ● 経済学部 30名 ● 未解答 26名 ● 理学部 34名 ● 未解答 27名	■ 学年 ● 1年生 273名 ● 性別 ● 男 197名 ● 2年生 69名 ● 女 160名 ● 3年生以上 6名 ● 未解答 26名 ● 大学院生 8名 ● 未解答 27名
--------------------	--	--	---

Q4

あなたが面白いと思う授業は？

- 1位 コーヒーの世界 13名
- 2位 英国諸島の地史 11名
- 3位 ドイツ語 11名
- 4位 21世紀を生きるためのキャリアプラン 9名
- 5位 日本国憲法概説 8名
- 6位 金沢学入門I 7名
- 7位 中国語 7名
- 8位 公共政策入門I 6名
- 9位 初学者ゼミ 5名
- 10位 心理学 4名
- 11位 音楽D 4名
- 12位 化学 4名
- 13位 有機化学 4名
- 14位 インド思想史 4名
- 15位 海の地質学 4名

1位に輝いた「コーヒーの世界」は、コーヒーを通して、科学、文化、芸術、経済、政治などあらゆることを学問的に掘り下げていきます。

2位に「英国諸島の地史」が、10位に「海の地質学」が選ばれた環日本海地域環境研究センター・塚脇真二准教授に、この結果をお伝えすると、「学生の理科離れが叫ばれていますが、そんなことは感じません。学生たちのサイエンスに対する強い興味を授業中に感じ、自分自身の研究へのいい刺激となります。この評価を励みに今後も精進したいものと思います」とお声を寄せてくださいました。

Q1

初めて金沢大学に来たときの印象は？

- 1位 広々としている 254名
- 2位 自然に溢れている 227名
- 3位 キャンパスがきれい 128名

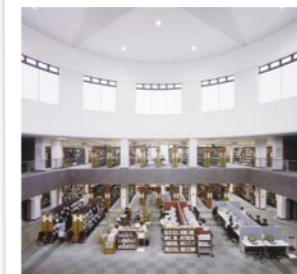


広々としたキャンパスでは、春は鳥のさえずり、夏はあふれる緑、秋は見事な紅葉、冬は美しい雪景色と四季を堪能できます。他には「学食がおいしい」「先輩たちが楽しそう」という声もありました。

Q2

キャンパスの中で好きな場所は？

- 1位 図書館 157名
- 2位 学食 129名
- 3位 サークルの部室や練習の場 52名
- 4位 キャンパス内のベンチ 50名
- 5位 総合教育棟の教室 42名
- 6位 研究室 22名



中央図書館

- 1位 学食 129名
- 2位 サークルの部室や練習の場 52名
- 3位 キャンパス内のベンチ 50名
- 4位 総合教育棟の教室 42名
- 5位 研究室 22名

「理学部前の足湯」や「創立五十周年記念館 角間の里」や「薬草園内にあるロック・ガーデン」という回答もありました。また、「トイレ」という回答も！落ち着くのでしょうか？



学食

Q3

あなたが金沢大学で自慢できることは？

- 1位 総合大学であること 163名
- 2位 生活環境がいい 135名
- 3位 施設が充実している 131名
- 4位 授業がおもしろい 21名
- 5位 先生がやさしい 12名

金沢大学は、文系、理系、医薬系が揃った総合大学。サークル活動や授業などで知り合った学部を超えた友人たちは、自分の視野をどんどん広げてくれます。大学で得た友人は、一生の宝物。





多くの命を救うために、 「体で覚える救命法」を広める ライブエイド金沢

人間の脳は4~6分ほど酸素が送られないと大きなダメージを受ける。そのため、心肺停止状態にある人の生死は、救急隊が到着するまでの救命処置に大きく左右される。田中良男さん(医学部6年)は、「救命処置の大切さとその方法を伝えられたら」と、昨年、医学部サークルライブエイド金沢(LAK)を立ち上げた。

まず、LAKのメンバー3人とともに医学部附属病院救急部の医師を訪問。講習のプログラムを作り始めた。「人工呼吸や心臓マッサージの講習を受けても、いざという時に実践できない人が多い。学んだことを

実践するためには『体が覚えていること』が重要です。短時間で何度も体を動かせるように内容を整理し、最も覚えやすい説明の順序について議論を重ねた。

プログラムができると、訓練用の人形とAED^{※1}を使った講習会を実施。参加者全員に1人20分ほどかけて救命法を実践してもらおうと、「非常に為になる」と評判を得た。その後も講習の依頼は続々と舞い込んでいる。田中さんは「一人でも多くの人に救命法を伝えていきたい」と意気込みを語った。

※1 AED
自動体外式除細動器。心臓に電気ショックを与える医療機器で、一般市民でも使用することができる。

ライブエイド金沢の活躍はここで!

- 受講グループを募集中!
希望のグループは liveaidkanazawa@mail.goo.ne.jp までご連絡ください。
- ホームページ <http://liveaidkanazawa.web.fc2.com/index.html>

サークル紹介

身近にできる助け合いとふれあいに取り組む 心あたたまるサークル特集

サークル紹介ホームページ http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/

ふれあいを通して、 子どもたちとともに学びあう 児童クラブひこうせん

創部24周年を迎える「児童クラブひこうせん」は、金沢市内の学童保育施設を回り、工作や運動など、一緒に遊ぶことで子どもたちの成長を支えている。

メンバーの長谷川政人(法学部3年)さんは高校時代に保育園を訪問。子どもたちから元気もらった経験が忘れられずに入部した。以来、活動のたび「子どもはすごい」という思いを新たにしている。

子どもたちは大学生を見て、思いをまっすぐ表現してくれると長谷川さんは言う。「例えば工作を時間内に終わらせようと急ぐと、子どもたちはちゃんとそれを見抜いて、『早すぎる』と指摘が飛びます」。

そんな子どもたちの声を丁寧に

拾っていく活動。どうすれば喜んでもらえるのか。安全にはどう注意すればいいのか。子どもの声に励まされ、様々な試行錯誤を繰り返すうちに、いつの間にか自分たちも成長している。それが「ひこうせん」の魅力なのだ。

子どもを取り巻く環境に興味を持った長谷川さん。少子化についての研究をはじめ、平成19年度の「学長研究奨励費」に選定された。メンバーたちの活躍の場は、社会へと広がっていく。

ひこうせんの活躍はここで!

- クリスマス公演
日時:2007年12月8・13・15日



Graduate Interview 卒業生インタビュー

2007年4月に設置されたフロンティアサイエンス機構(FSO)で、研究に関するマネジメント業務全般を担当。彼女たちの存在を通じて、機構の果たす役割や、金沢大学が進むべき未来が見えてきた。



フロンティアサイエンス機構
博士研究員

リム・クリスティーナ
Postdoctoral Researcher LIM Christina

フロンティアサイエンス機構
博士研究員

稲垣美幸
Postdoctoral Researcher INAGAKI Miyuki

彼女たちが働くFSOは、金沢大学の特色ある重点研究プログラムを世界的な研究へと孵化・育成することをめざした研究機構である。そこで今後は、研究を理解して、研究をサポートするシステムと人材が重要になってくる。彼女

が、イギリスの大学でビジネスを学んだ後に、金沢大学で文化人類学を専攻し、研究の幅を大きく広げた。「ビジネスでは数字を使って考えました。文化人類学は聞き取り調査が重要。数字からは実情し

か分かりませんが、聞き取りをすることができました。リム・クリスティーナさんは、イギリスの大学でビジネスを学んだ後に、金沢大学で文化人類学を専攻し、研究の幅を大きく広げた。「ビジネスでは数字を使って考えました。文化人類学は聞き取り調査が重要。数字からは実情し

か分かりませんが、聞き取りをすることができました。リム・クリスティーナさんは、イギリスの大学でビジネスを学んだ後に、金沢大学で文化人類学を専攻し、研究の幅を大きく広げた。「ビジネスでは数字を使って考えました。文化人類学は聞き取り調査が重要。数字からは実情し

か分かりませんが、聞き取りをすることができました。リム・クリスティーナさんは、イギリスの大学でビジネスを学んだ後に、金沢大学で文化人類学を専攻し、研究の幅を大きく広げた。「ビジネスでは数字を使って考えました。文化人類学は聞き取り調査が重要。数字からは実情し

か分かりませんが、聞き取りをすることができました。リム・クリスティーナさんは、イギリスの大学でビジネスを学んだ後に、金沢大学で文化人類学を専攻し、研究の幅を大きく広げた。「ビジネスでは数字を使って考えました。文化人類学は聞き取り調査が重要。数字からは実情し

リム・クリスティーナさん プロフィール

1976年生まれ。マレーシア出身。イギリス・シェフィールド大学を経て、金沢大学へ。鹿野勝彦理事の下で、文化人類学を学ぶ。博士論文は「マレーシアの新中間層における消費文化―若者とケータイ電話」。

稲垣 美幸さん プロフィール

1979年生まれ。北海道出身。NHKスペシャル「生命 40億年はるかの旅」を見て、地球科学に魅了される。金沢大学理学部地球学科から大学院自然科学研究科まで、大村明雄名誉教授に師事。

※1 更新世

地球の誕生から現在までの時代を定義する地質時代のひとつで、およそ170万年前から1万年前までを指す。

※2 『Science』『Nature』

世界で最も権威のある学術雑誌。

研究者の視点と経験を活かし、 世界と大学をつなぐ



米徳大輔助教

9月 大学院自然科学研究科・米徳大輔助教が「第1回日本物理学会若手奨励賞」を受賞
「ガンマ線バーストにおけるSpectral Peak Energy - Luminosity 関係式の発見とその宇宙論への応用」についての研究が評価されました。



山田実教授

8月 ■受賞 大学院自然科学研究科・山田実教授が「第1回応用物理学会フェロー表彰」を受賞
半導体レーザーの動作理論確立と動作特性改善に関する研究が評価されました。

11月

林勇二郎学長が「市文化賞」および「北國文化賞」を受賞
機械工学・熱工学の専門分野における研究者としての功績と、本学の法人化と大学改革において手腕を発揮したほか、北陸地区国立大学連合や大学コンソーシアム石川を主導し、大学を地域に開く活動に尽力したことなどが評価されました。

7月 ■研究・教育業績

平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択
富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学と共同申請した「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム—ICTによる融合型教育システム—」が採択されました。

8月

科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業(さきがけタイプ)」に2件採択
大学院自然科学研究科の長山雅晴准教授が実施する「自己組織化として

公務員試験

平成19年度国家公務員II種採用試験(行政・技術系)国公立大学トップ合格者数は、昨年度の93名から150名に大幅に増加しました。

司法試験

平成19年度新司法試験に8名合格

9月

文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」に採択
保健管理センターが担当する「心と体の育成による成長支援プログラム」が採択されました。

特許実施料収入 全国6位

平成18年度は71件の発明届出があり、50件の特許出願し、また過去に出願した特許のうち14件を企業に技術移転しました。

公務員試験

平成19年度国家公務員II種採用試験(行政・技術系)国公立大学トップ合格者数は、昨年度の93名から150名に大幅に増加しました。

司法試験

平成19年度新司法試験に8名合格

金沢大学同窓会情報 Alumni association information

2007 06-11

卒業学部を超え、日本各地で交流が進む

平成18年8月に金沢大学同窓会連絡協議会が設立されて以降、各地区や職種(事業所)では卒業学部を超えて、卒業生の交流が活発化しています。



6/23 金沢工業会石川支部が通常の支部総会に加え、5年に一度の全国総会や角間キャンパス見学会を開催。
7/7 医学部十全同窓会が総会・特別講演・懇親会を開催。
9/29 北の都会(法・経済・文学)部同窓会東京支部、金沢工業会東京支部、理学部同窓会東京支部及び薬学同窓会東京支部が総会を開催。なお、今年度は、総会終了後、合同で記念講演や懇親会が開催された。

活動報告

Activity report

平成2年3月卒業生名簿製作、同年12月同窓会設立。以来、皆様に金沢大学50周年記念事業や金沢大学同窓会連絡協議会の支援をいただき感謝しております。
金大は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」とうたわれます。教育学部同窓会も新役員の誕生のもと、金沢大学同窓会連絡協議会にお力添えくださいますことを願っています。



当日は第44回金大祭も開催。後輩たちの楽しげな様子を見学した

10/6 法経・文同窓会関西支部が総会及び金沢工業会近畿支部との合同懇親会を開催。
10/19 第4回同窓会連絡協議会幹事会を開催。ホームカミングデイ実施に関する協力依頼や会員名簿の整備促進について協議が行われた。
11/3 卒業生(同窓生)が母校のキャンパスに集い、親睦を深めるとともに、大学の現状を知り、本学構成員との交流を通じて、本学の活動を理解してもらうことを目的に、第1回金沢大学ホームカミングデイが開催された。
当日は大学祭のさなか、晴天にも恵まれ、300名を超える参加者があり、旧交を温めあった。

先輩と後輩が待っています！
どうぞ、ご参加ください！
○活動スケジュール(平成20年)
1/8 「北の都会」月例会
2/4 第5回同窓会連絡協議会幹事会
5/23 平成19年度同窓会に関する課題と取り組み
活動強化の一環として—
同窓会連絡協議会幹事会の開催(年2回/3回)
単位同窓会への援助・相互交流
事務局体制整備の検討
ホームカミングデイ等の学長(大学)主催行事の開催
地区・職種(事業所)・寮、サークル等の同窓会結成支援
医学部創立百五十周年記念事業への協力
連絡協議会ニュースの発行継続



右)レセプション/右上)フィルハーモニー管弦楽団と合唱団による金沢大学校歌/右下)「金沢大学の過去と未来」と題し、林勇二郎学長が記念講演

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を

[金沢大学同窓会連絡協議会]

歴史と伝統があり、総合大学でもある金沢大学は、多方面で活躍する多くの卒業生を輩出しています。そのため、同窓会では質の高い人的ネットワークと有意義な出会いの機会が得られます。卒業後も、「同窓生」という形で、大学生活の思い出を育むことが期待されています。



同窓会や後援会、卒業・成績証明書の取得手続きのほか、学びたい人を応援する各種セミナーの案内など、卒業生のための情報がいっぱいです。

〔事務局〕金沢大学総務部
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL:076-264-6196 FAX:076-234-4014
E-mail now@kanazawa-u.ac.jp

URL : http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html

Alumni association

[金沢大学同窓会]

- 法・経・文同窓会 TEL(076)264-1667 (同窓会事務局)
- 教育学部同窓会 TEL(076)264-6196 (同窓会連絡協議会事務局 気付)
- 理学部同窓会連絡会 TEL(076)221-2061 (金沢子ども科学財団 気付)
- 医学部十全同窓会 TEL(076)265-2131
- 医学部保健学科 つるま同窓会 TEL(076)265-2504
- 薬学同窓会 TEL(076)234-4411
- 金沢工業会 TEL(076)264-0482
- 四高同窓会 TEL(076)262-5464 (石川近代文学館内)

DATA NOTE

伝統のアカンサスが輝く！
新生金沢大学
ロゴタイプ&スクールカラーを制定

2008年度からスタートする「3学域16学類」。それに先駆け、金沢大学ではロゴタイプとスクールカラーを新しく制定しました。
デザイナーを担当したのは、広告デザインから化粧品ブランドのパッケージに至るまで幅広く手がける東海林小百合さん。ロゴタイプの書体は明朝体でもゴシックでもな

く、独特の世界観を醸し出す日本語と、流れるように通る優雅でモダンな英語。スクールカラーは、日本古来の色「なす紺」で、古都金沢にふさわしい伝統と知性を表現しています。
制定に伴い大学の封筒などのデザインも一新。新しい時代に向けたイメージアップと大学改革が、身近なものからも広がっていきます。

ロゴタイプ日本語

金沢大学

ロゴタイプ英語

KANAZAWA UNIVERSITY

ロゴマーク



校章

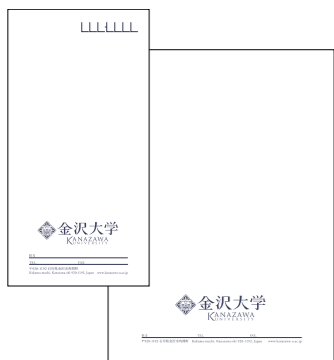


ロゴ組の一例



金沢大学スクールカラー(なす紺)

特色 DIC F49(Bleu nuit)
CMYK C=100 M=82 Y=50 K=10
RGB R=28 G=50 B=77



NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

August 8月

8/6~8 高校生9名が医学部附属病院でインターンシップ体験

8/7 ひらめき☆ときめきサイエンス「ウェルカム！エンジンワールド」を開催

中学生約20名が自動車のエンジンの仕組みなどを学びました。

8/7 フロンティアサイエンス機構が国際シンポジウムを開催

8/8~9 オープンキャンパスを開催

金沢大学をめぐる高校生たちを対象に、模擬講義、体験コースなどが行われ、2日間で延べ7000名以上が来場しました。



8/9~10 理学体験セミナーを開催
高校生の科学的な思考力の養成などを目的として開催され、石川県内の高校10校から約100名が参加しました。

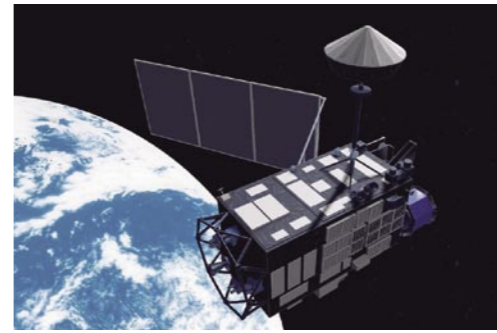


September 9月

9/6 「学生広報大使」が母校を訪問
医学部保健学科の95名が、後輩に大学の魅力を発信するため、全国61の高校を訪問しました。

9/14 本学開発の機器を搭載した月周回衛星「かくや」打ち上げ

総合メディア基盤センター・笠原植也准教授、自然科学研究科・後藤由貴助教、同センター・井町智彦助教が開発した観測装置WFC（波形捕捉器）を搭載した月探査衛星が打ち上げられました。



月周回衛星「かくや」 画像提供：JAXA

9/15 フォーミュラ研究会が全国3位

第5回全日本学生フォーミュラ大会において、2007年度製作車輛（KF2007）で第3位に入賞しました。

9/15 県民公開セミナー「がん医療の最前線」を開催

男子ハンドボール部が北信越学生リーグで優勝

4戦全勝で優勝し、インカレ出場権を得ました。

9/22~23 北海道大学法学研究科21世紀COEプログラムと共催で「知的財産権」国際シンポジウムを開催

9/28 外国語版ホームページをリニューアル

9/28に金沢大学の英語版ホームページを、10/9には中国語版ホームページをリニューアルしました。

9/28 9月期学位記・修了証書授与式
学部生24名、大学院研究科修士と博士論文審査合格者67名、合計91名に学位記・修了証書が授与されました。



October 10月

10/1 医学部保健学科厚生会館がリニューアル



10/1 子どものこころの発達研究センターを設置

↓ P12に関連記事

10/2 アフリカ6カ国の教育関係者が12名が来学



10/3 大学院医学系研究科とベトナムハイフオン医科大学が部局間交流協定を締結

10/3 経済産業省・文部科学省「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業「高度専門（技術・ビジネス）留学生特別コース」が開講

10/13 「理工学域創設記念シンポジウム」を開催

「理工学と工学の融合で科学技術の未来をひらく」をテーマに開催されました。

特別講演では、本学卒業生であるサントリー（株）顧問・田中隆治氏（青いバラの研究で有名）、東北大学教授・中沢正隆氏（超高速光通信の第一人者）を講師に、高校生や市民約230名が参加しました。



10/27 教育学部附属高等学校創立六十周年記念式典を挙行

10/28 「能登半島里山里海自然学校」開設1周年＆「能登里山マイスター養成プログラム」キックオフ記念シンポジウムを開催

10/28 フィルハーモニー管弦楽団が輪島市門前町で震災復興支援コンサート

10/28 アメリカンフットボール部14連覇

北陸学生アメリカンフットボール秋季リーグで14連覇を果たしました。

10/29 資料館と附属図書館がシンポジウムを開催

「金沢大学3学域化と総合大学の教員養成の新機軸」地域における教員養成の過去・現在・未来」をテーマに開催され、学内外から60名が参加しました。

November 11月

11/3 吹奏楽団が全国大会銅賞
全日本吹奏楽コンクールに13回連続で出場し、銅賞を受賞しました。

11/3 ものづくり教室



11/3 ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー



11/3 第1回金沢大学ホームカミングデー

第1回から第10回まで（昭和28〜37年）の卒業生300人以上が参加しました。

↓ P20に関連記事

11/2~4 第44回金大祭



11/4 第2回アカンサス駅伝大会



「Sonelzonal」混迷の時代を照らせをスローガンに、講演会ライブ、喫茶、映画上映会、模擬店などが行われました。